



建設コンサルタンツ協会九州支部（田中清支部長）は4日、「夢アイデア交流会2021」を開いた。写真。今回で19回目となるまちづくりの夢アイデア募集では応募46作品から、最優

## 最優秀に片野さん 建コン協「夢アイデア交流会2021」

秀1、優秀4、佳作5作品を選んだ。夢アイデア事業の20周年記念式典も開かれた。

投票や審査の結果、最優秀賞には片野真帆さんの「棚田から地域を元気に」が選ばれた。片野さんは「棚田は写真撮影目的の観光客が増えているものの、地域にお金を落とす機会は少ない」との問題意識から、若者をターゲットにした農業体験やピクニック・キャンプ、休耕期の野外映画上映といったさまざまなアクティビティができる空間「TANADA Park」を提案した。

講評した九大名誉教授の日野伸一審査委員長は、「夢アイデア募集の活動がもっと普及し、安全で住みよいためになるよう今後たくさんの方の募集が集まることを願う」とした。

優秀4作品と佳作5作品の発表者は次のとおり（敬称略）。

- ▽子どもが安心・安全をして楽しく遊ぶための公園改造プログラム（ミラー輝）▽「有人の無人駅」を活用した研究と生活の「乗り入れ」（石垣真名子）▽地域活動は若者とタフレットコンシェルジュ（村下雄三）▽「ねえ、知ってる？俺ん家って動くよはい」〜好きなまちへ自宅と一緒に引っ越そう〜（廣瀬隆）

### 〈佳作〉

- ▽僕らと廃墟とまちづくり（内徳洗貴）▽MRゴーグルによる自転車誘導ナビゲーション（大谷栢樹）▽ドライブスルーの街（柴田好美）▽障害のある方の社会参加を目指す街作りの提案「ミニリンピックを開催しよう」（緒方祥之）▽和や博多を感じたはずまいを現代に博多屏風モルタル版の製作と活動（淡川哲郎）

冒頭あいさつした田中支部長は、これまでの20年の活動を振り返るとともに、今回の応募について「自分のまちをよくしたいという夢、希望、アイデアが盛り込まれていた」と述べ、事業参加に感謝した。

今回は、新型コロナウイルス感染症対策として、福岡市内の会場には選定された10作品の発表者、審査委員、スタッフが出席したほか、オンライン参加とした。発表者によるプレゼン

「TANADA Park」を提案した。応募作品の中には同支部の支援により実現したものもある。